

本単元で育む主な情報活用能力

B-STEP2, C-STEP2
G-STEP2, H-STEP2

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



単元でつきたい力（ステップシートの項目）

（教科等でつきたい力）

- ・地域の関係機関の人々は、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。
- ・過去に発生した地域の自然災害、関係者の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現する。

（学校図書館等の活用でつきたい力）

- ・図書資料等から必要な情報を集め、整理する。
- ・自分の考えが正しいかどうかを確かめる。

単元における学習の展開（全 14 時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第 1 次 (4 時間)	○日本各地の災害について知る。 ・自然災害から命を守る人々の仕事や、仕組みについて知る。
第 2 次 (8 時間)	○大阪府の災害について知る。(☆) ○関心がある場所（大阪府内）の自然災害を調べる。自分たちの安全を守るための行動や備えを調べる。 ・関心がある場所の土地の特徴と想定される自然災害について調べる。 ・自分の身を守るための行動について、調べたり考えたりする。(本時) ○調べたことをまとめる。
第 3 次 (2 時間)	○調べたことや考えたことを 3 年生に伝える。 ・発表資料にまとめ、伝える。

本時のねらい

自然災害から身を守るための方法を考え、自分の考えが正しいかどうか図書資料等で確かめる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (5 分)	1. 前時を振り返る。 ・調べた場所の土地の特徴と、想定される自然災害について振り返る。 「川の近くだから、洪水がおきたら水につかってしまう。」 「山が近くにあるから、大雨が降ったら土砂崩れがおきるかもしれない。」 「近くに海があるから、大きな地震がおきたら津波がくるかもしれない。」	・ワークシートを見て振り返らせる。
展開 (30 分)	2. 調べた場所で、自然災害がおきた時の行動について、調べたり考えたりする。 ・調べたり考えたりしたことをワークシートにまとめる。 例) ★大雨が降ったら、川の水が増える。 →土地の高いところに逃げる。 ★地震がおきた →調べた場所は、広域避難所に指定されているから、その場 いたほうがいい。	・自分の考えが正しいかどうか図書資料や防災ガイドブック等で確認するように声かけする。 ・必要な情報を集められるように、災害に関する図書資料や、各市区町村のハザードマップや防災ガイドブックを用意する。 ・土地の特徴をふまえた身の守り方を考えるように声かけする。
まとめ (10 分)	3. 調べたり考えたりしたことを全体で共有する。 「調べた場所は違うけど、川の近くだから、高いところに逃げるのが同じ。」 「土砂くずれば、濁った水が山から流れってくるなどの前兆があるから、災害がおこる前に逃げたほうがいい。」	・自分が調べた場所と他の場所の土地の特徴に注目させる。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・子どもたちに、大阪府内で関心のある場所や好きな施設のアンケートをとることで、グループ分けの時点から主体的に調べることができるようにした。
- ・実際の防災リュックを用意し、避難の時にどんなものが become 必要になるのか予想をたて、中身を考える活動を取り入れることで、命を守るためにどうすればよいかを自分事としてとらえることができた。
- ・地図の見方や地図記号をおさえておくことで、自分の調べる市区町村や施設の場所をすぐに確認することができた。
- ・ハザードマップ等を使って調べ学習を進めていく際、市区町村によって情報の量が異なったり、内容が難しかったりしたため、グループによって差が生じないよう、情報を補うために、図書資料やインターネットを活用した。



身を守る行動について、図書資料や防災ガイドブックなどで調べている。